



2023年9月期 第3四半期

決算説明資料

東証グロース 証券コード：4427

株式会社 EduLab

2023年8月14日



当社株式は、2022年4月1日より、株式会社東京証券取引所から特設注意市場銘柄に指定されておりましたが、再発防止に向けた改善計画に基づき、内部管理体制等の改善に向けた取り組みを進めたことにより、2023年5月20日付にて、特設注意市場銘柄の指定が解除されました。

今後も内部管理体制の整備・強化を継続するとともに、当社グループ一丸となって、企業価値の向上に向け全力を尽くしてまいります。

| | |
|--------------------|----|
| 1. 第3四半期決算概況 | 3 |
| 2. 2023年9月期第3四半期実績 | 4 |
| 3. 事業セグメント別 実績 | 10 |
| 4. 2023年9月期通期見通し | 16 |
| 5. 事業トピックス | 18 |

1. 2023年9月期3Q決算概況

- 売上高 5,306百万円（前年同期比 29.3%減）
- EBITDA △51百万円（前年同期は293百万円）
- 営業利益 △411百万円（前年同期は△226百万円）
- 経常利益 △506百万円（前年同期は47百万円）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益△2,357百万円（前年同期は△941百万円）
 - EPS △231.92円
- テストセンター事業で売上高は前年並みとなったものの、テスト等ライセンス事業、教育プラットフォーム事業、AI事業、テスト運営・受託事業で売上が減少
- 業務委託費や人件費の削減等により販売費及び一般管理費は減少したものの、売上総利益の減少を補いきれず、営業損失は前年同期比で損失幅を拡大
- 減損損失や本社移転予定費用の引き当てに伴う特別損失の計上等により、四半期純損失は損失幅を拡大

2. 2023年9月期3Qのセグメント動向

- テスト等ライセンス事業は、英語スピーキングテストのライセンス収入やCASECの売上減少等により減収（29.8%減）
- 教育プラットフォーム事業は、語学ラーニングツールの利用に関するライセンス契約の終了に伴い、減収（30.9%減）
- テストセンター事業は、テストセンター利用者数が順調に推移したものの、CBT配信受託業務における一部契約終了の影響等を受け、売上高は前年並み（2.0%減）
- AI事業は、手書き文字認識「DEEP READ」ライセンス収入が安定して推移したものの、グループ間での利用が減少し、減収（25.6%減）
- テスト運営・受託事業は、全国学力・学習状況調査（小学校事業）を再委託機関として受託したこと等により減収（55.6%減）



2023年9月期 第3四半期実績

連結損益計算書

(単位：百万円)

| | 22年9月期3Q | 23年9月期3Q | 前年同期比 |
|---------------------|----------|----------|--------|
| 売上高 | 7,505 | 5,306 | △29.3% |
| 営業利益 | △226 | △411 | - |
| 営業外収益 | 477 | 87 | |
| 為替差益 | 223 | 0 | |
| 投資有価証券売却益 | 223 | - | |
| 契約解約益 | 12 | 68 | |
| 営業外費用 | 203 | 182 | |
| 投資事業組合管理費 | 111 | 131 | |
| 経常利益 | 47 | △506 | - |
| 特別利益 | 16 | 366 | |
| 固定資産売却益 | - | 333 | |
| 投資有価証券評価益 | - | 24 | |
| 特別損失 | 948 | 2,187 | |
| 減損損失 | 507 | 1,973 | |
| 固定資産除却損 | - | 63 | |
| 投資有価証券評価損 | 167 | - | |
| 特別調査費用引当金繰入額 | 226 | - | |
| 上場契約違約金 | 48 | - | |
| 四半期純利益 ¹ | △941 | △2,357 | - |

¹ 親会社株主に帰属する四半期純利益

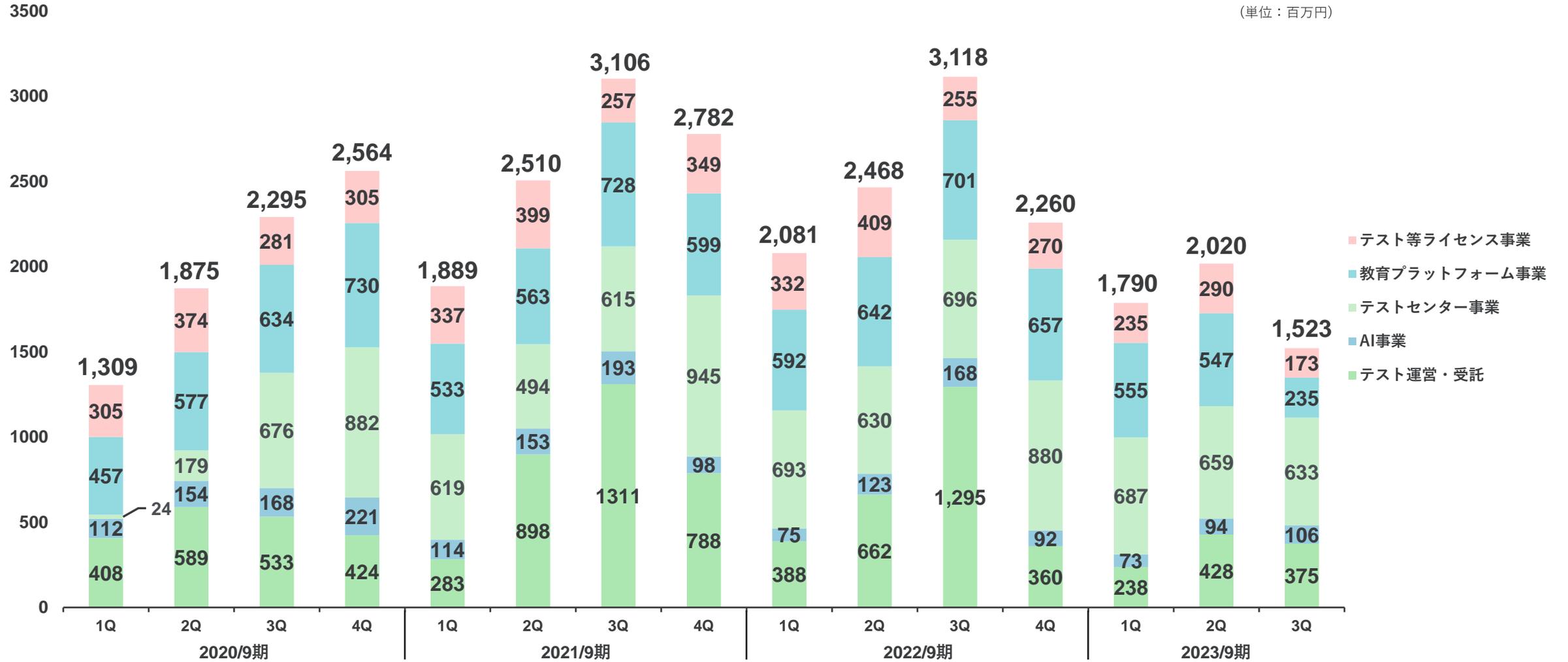
- 売上高は対前年同期比 **29.3%減**の**5,306百万円**となりました。
- 業務委託費や人件費の削減等により販売費及び一般管理費は前年同期比で減少したものの、売上総利益の減少を補いきれず、**411百万円の営業損失**を計上しました。
- 前年同期に計上した為替差益及び投資有価証券売却益が今期3Qは発生しなかったため、営業外収益は前年同期比で減益となり、**506百万円の経常損失**となりました。
- 主にプラットフォーム事業及びテスト等ライセンス事業におけるソフトウェア等の減損損失、本社移転予定費用の引き当てに伴う特別損失の計上等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は前年同期比で損失幅が拡大し、**2,357百万円の四半期純損失**となりました。

セグメント別の売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

| 事業セグメント | | 22年9月期 3Q | 23年9月期 3Q | 前年同期比 |
|------------|---------|-----------|-----------|-----------|
| テスト等ライセンス | 売上高 | 997 | 700 | △ 29.8 % |
| | セグメント損益 | 224 | 32 | △ 85.7 % |
| 教育プラットフォーム | 売上高 | 1,935 | 1,338 | △ 30.9 % |
| | セグメント損益 | 548 | 222 | △ 59.5 % |
| テストセンター | 売上高 | 2,020 | 1,980 | △ 2.0 % |
| | セグメント損益 | 137 | 186 | + 35.9 % |
| AI | 売上高 | 368 | 273 | △ 25.6 % |
| | セグメント損益 | △94 | 128 | — |
| テスト運営・受託 | 売上高 | 2,346 | 1,041 | △ 55.6 % |
| | セグメント損益 | 8 | △41 | — |
| 全社費用 | | △1,051 | △939 | 111百万円 減少 |

連結売上高の四半期推移



セグメント利益の四半期推移

(単位：百万円)

| 事業セグメント | 2020年9月期 | | | | 2021年9月期 | | | | 2022年9月期 | | | | 2023年9月期 | | |
|--------------|----------|------|------|------|----------|------|------|------|----------|------|------|------|----------|------|------|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q |
| テスト等ライセンス事業 | 95 | 167 | 90 | 90 | 135 | 195 | 79 | 175 | 73 | 156 | △4 | 43 | △26 | 72 | △14 |
| 教育プラットフォーム事業 | 239 | 320 | 399 | 436 | 241 | 222 | 404 | 246 | 132 | 203 | 213 | 181 | 119 | 107 | △4 |
| テストセンター事業 | △28 | 47 | △215 | △143 | △187 | △427 | △18 | 136 | 91 | △70 | 116 | 199 | 29 | 102 | 54 |
| AI事業 | △26 | 48 | 85 | 56 | △235 | △24 | 41 | △122 | △145 | 25 | 25 | 17 | 1 | 58 | 69 |
| テスト運営・受託 | △55 | 59 | 48 | 104 | △20 | 108 | 61 | △133 | △61 | 20 | 49 | 23 | △48 | 44 | △37 |
| 全社費用 | △292 | △355 | △225 | △255 | △330 | △388 | △298 | △286 | △305 | △367 | △378 | △472 | △375 | △299 | △264 |

(単位：百万円)

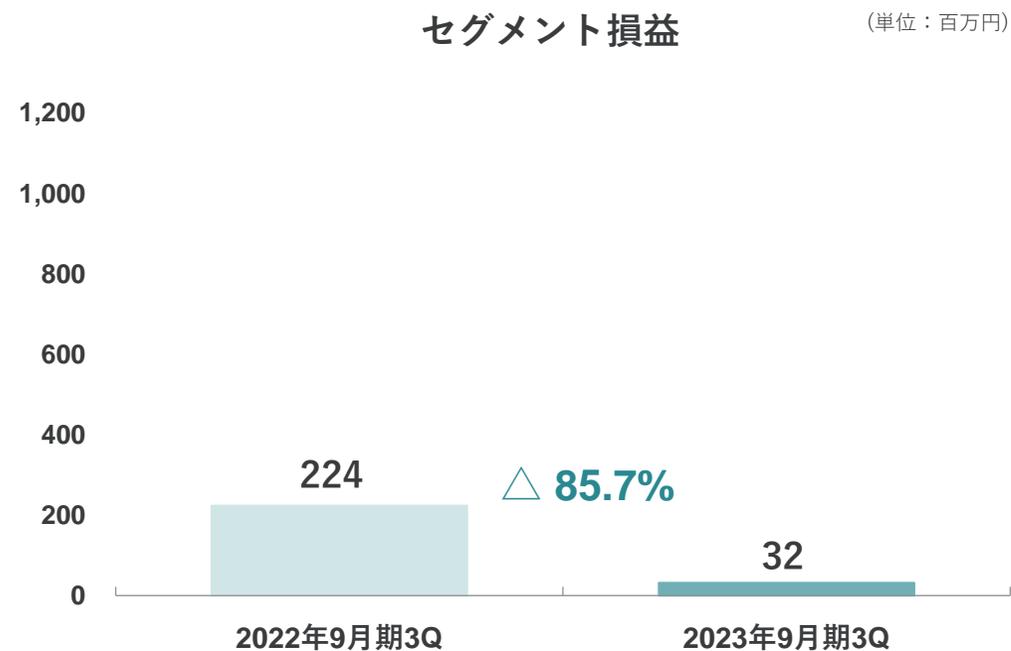
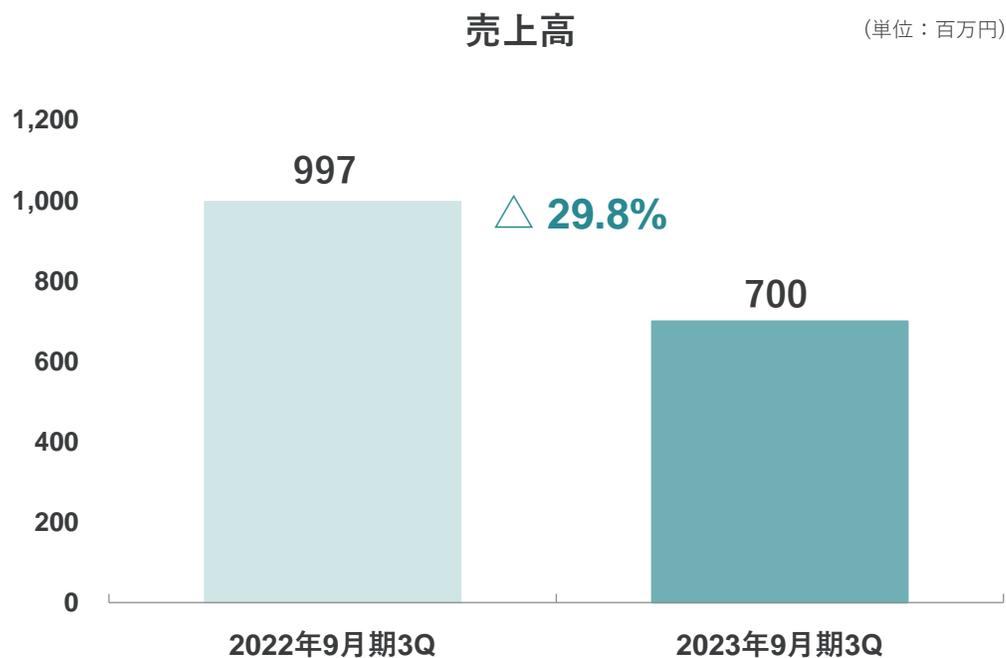
| | 2022年 9月末 | 2023年 6月末 | 増減額 |
|-----------------|---------------|--------------|---------------|
| 流動資産 | 9,091 | 6,428 | △2,662 |
| 現預金 | 6,053 | 4,658 | △1,395 |
| その他 | 3,037 | 1,770 | △1,267 |
| 固定資産 | 3,342 | 979 | △2,362 |
| ソフトウェア | 1,717 | 0 | △1,717 |
| 投資その他の資産 | 1,243 | 979 | △263 |
| その他 | 381 | 0 | △381 |
| 繰延資産 | 4 | 2 | △1 |
| 資産 合計 | 12,437 | 7,410 | △5,027 |
| 流動負債 | 5,418 | 3,174 | △2,243 |
| 有利子負債 | 3,093 | 1,613 | △1,479 |
| 契約負債 | 935 | 513 | △421 |
| その他 | 1,389 | 1,047 | △342 |
| 固定負債 | 1,984 | 1,412 | △571 |
| 有利子負債 | 1,894 | 1,340 | △554 |
| その他 | 89 | 72 | △17 |
| 負債 計 | 7,402 | 4,587 | △2,815 |
| 純資産 計 | 5,035 | 2,823 | △2,211 |
| 負債純資産 合計 | 12,437 | 7,410 | △5,027 |

- 流動資産は前年度末より2,662百万円減少
 - 現預金が1,395百万円減少した主な要因は、有利子負債の返済によるもの
- 固定資産は、ソフトウェアの減損損失等により2,362百万円減少減少した固定資産の内訳
 - ソフトウェア：1,717百万円減少
 - 投資その他の資産：263百万円減少
- 流動負債は、2,243百万円減少
 - 短期借入金：986百万円減少
 - 1年内返済予定の長期借入金：434百万円減少
- 固定負債は、571百万円減少
 - 長期借入金：518百万円減少
 - 社債：35百万円減少
- 純資産は、四半期純損失の計上により2,211百万円減少

事業セグメント別 実績

- 英語スピーキングテストに伴うライセンス収入や、企業・学校向け英語能力判定テストの「CASEC」における受験者数の減少の影響を受け、売上が減少
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 29.8%減**となる**700百万円**、**セグメント利益は同 85.7%減**となる**32百万円**となりました。

売上高・セグメント損益

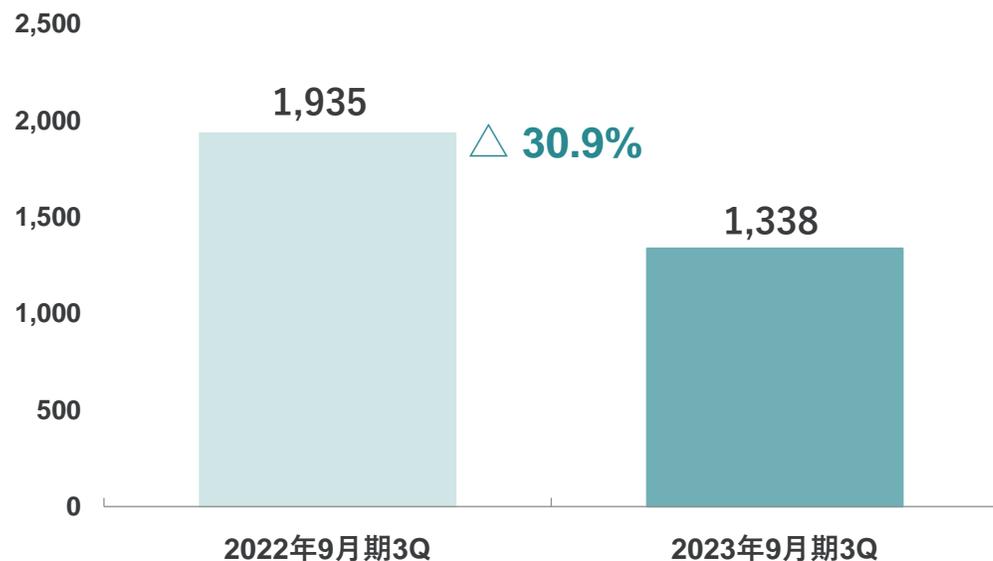


- 広告事業が前年並みで推移した一方で、当社子会社が特定の顧客に対して提供する語学ラーニングツールの利用に関するライセンス契約が、期間満了日である2023年3月31日付けで終了
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 30.9%減**となる**1,338百万円**、**セグメント利益は同 59.5%減**となる**222百万円**となりました。

売上高・セグメント損益

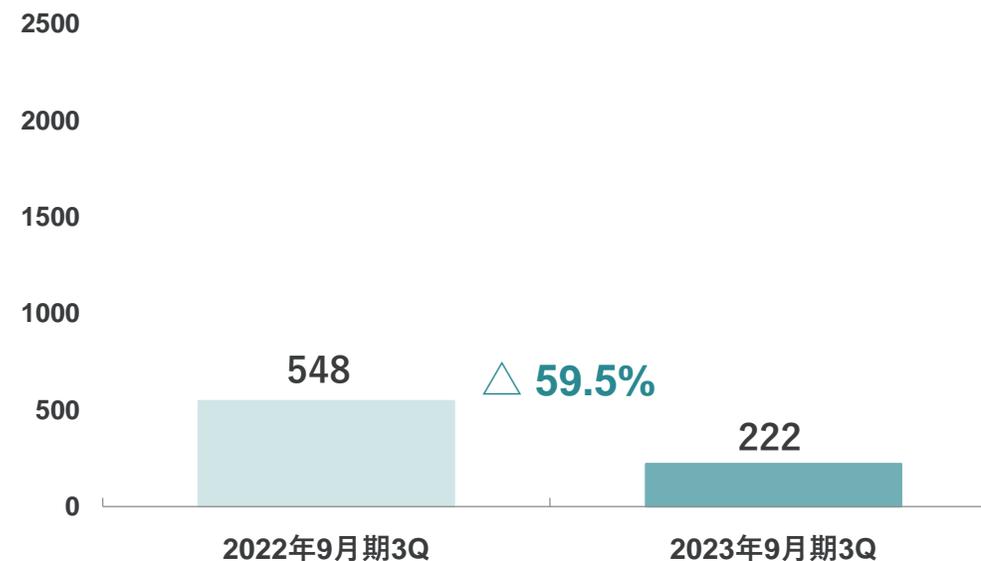
売上高

(単位：百万円)



セグメント損益

(単位：百万円)

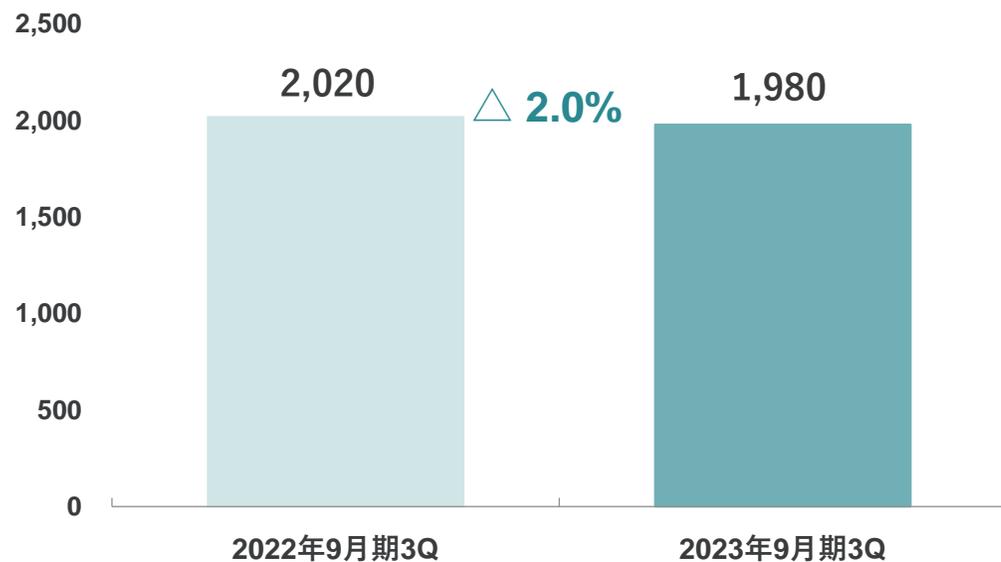


- テストセンター利用者数は今期3Qで約18.8万人（前年同期比14.0%増）と、順調に推移
- 一方で、CBT配信受託業務の一部契約終了に伴い、売上高は前年並み
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 2.0%減**となる**1,980百万円**、**セグメント利益**は採算改善努力により、**同 35.9%増**となる**186百万円**となりました。

売上高・セグメント損益

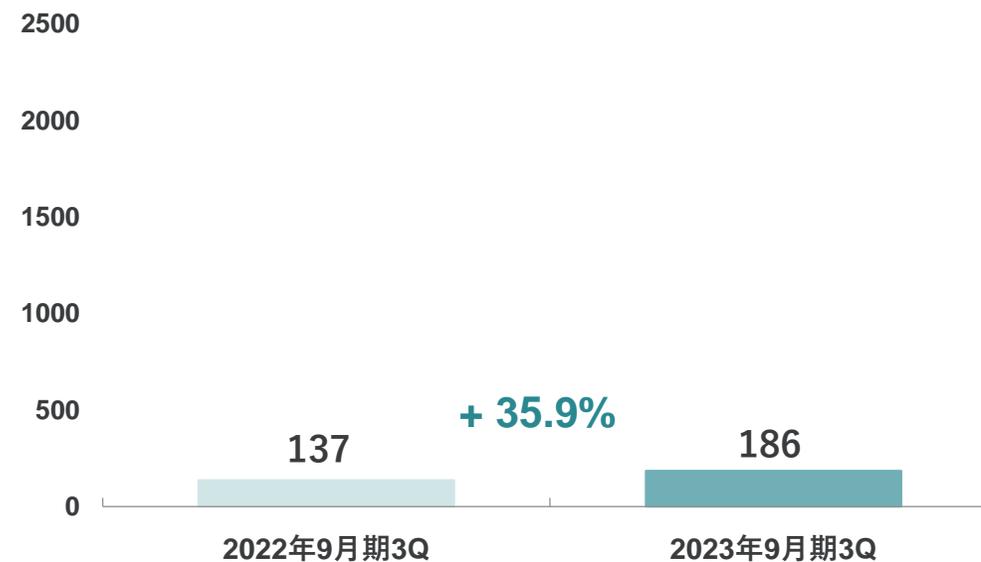
売上高

(単位：百万円)



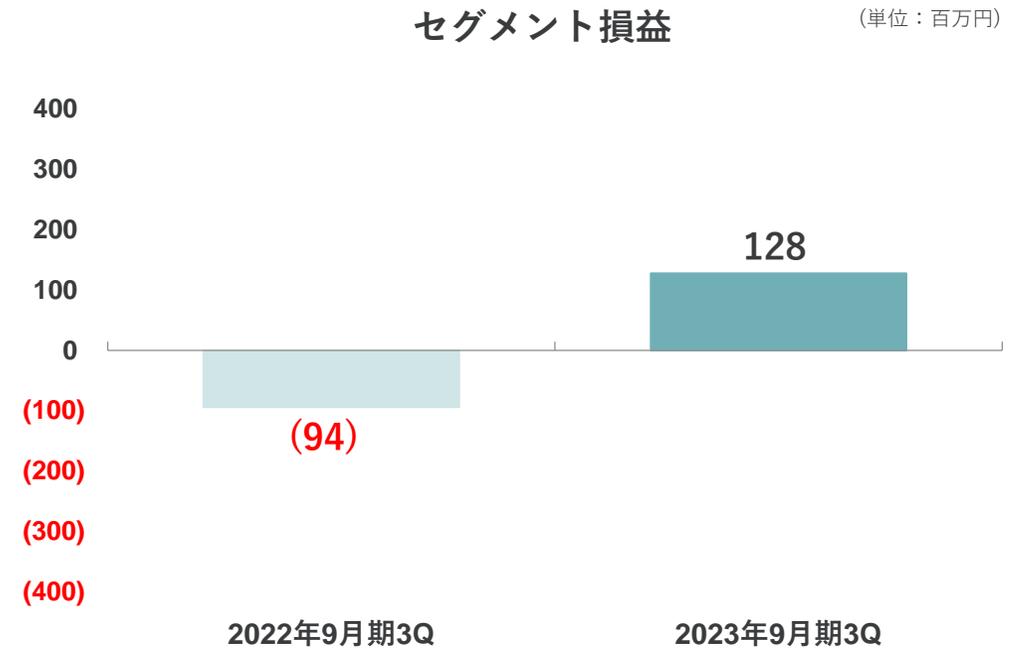
セグメント損益

(単位：百万円)



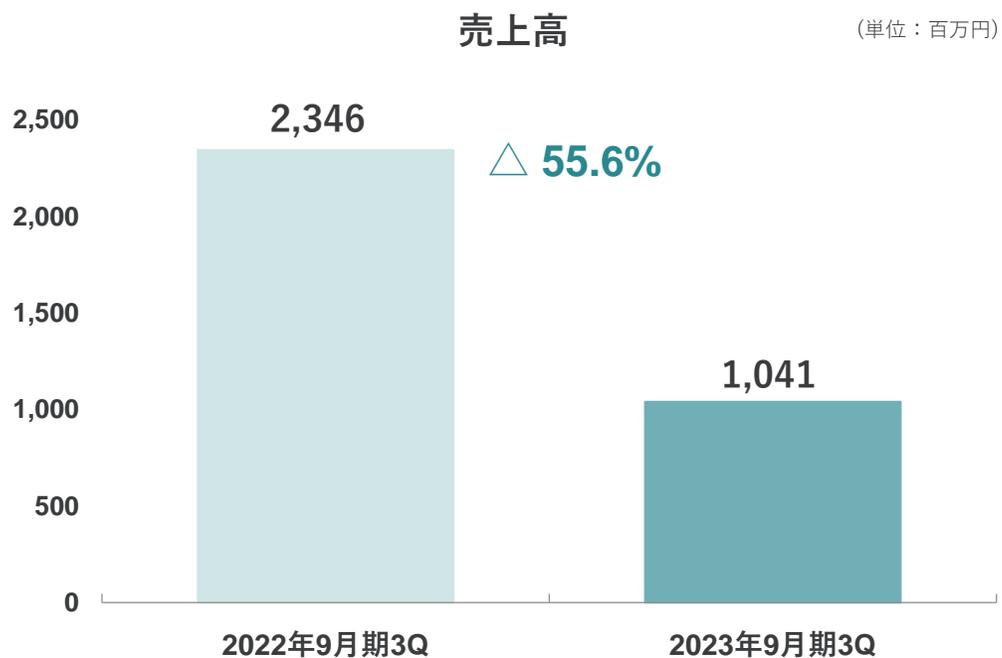
- 手書き文字認識「DEEP READ」ライセンス収入が安定したものの、グループ間での利用が減少し、売上高は減収
- 中国自習室事業の撤退に伴う販売管理費の減少等により利益率が改善
- 上記等の結果、売上高は前年同期比 **25.6%減**となる**273百万円**、セグメント利益は**128百万円**（前年同期はセグメント損失94万円）となりました。

売上高・セグメント損益



- 前年度に単独で受託した、文部科学省による全国学力・学習状況調査（小学校事業）を、今年度は再委託機関として受託したこと等により、売上が減少
- 上記等の結果、**売上高は前年同期比 55.6 %減**となる**1,041百万円**、**セグメント損失は41百万円**（前年同期はセグメント利益8百万円）となりました。

売上高・セグメント損益



2023年9月期 通期見通し

2023年3月24日に公表した2023年9月期連結業績予想から変更ありません。

| | 22年9月期実績 | 23年9月期 3Q (実) | 23年9月期通期 (予) | 進捗率 |
|---------------------|----------|---------------|--------------|-------|
| 売上高 | 9,758 | 5,306 | 6,750 | 78.6% |
| 営業利益 | △234 | △411 | △850 | — |
| 経常利益 | 101 | △506 | △1,200 | — |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | △818 | △2,357 | △3,050 | — |

事業トピックス

事業トピックス①

テストセンター事業

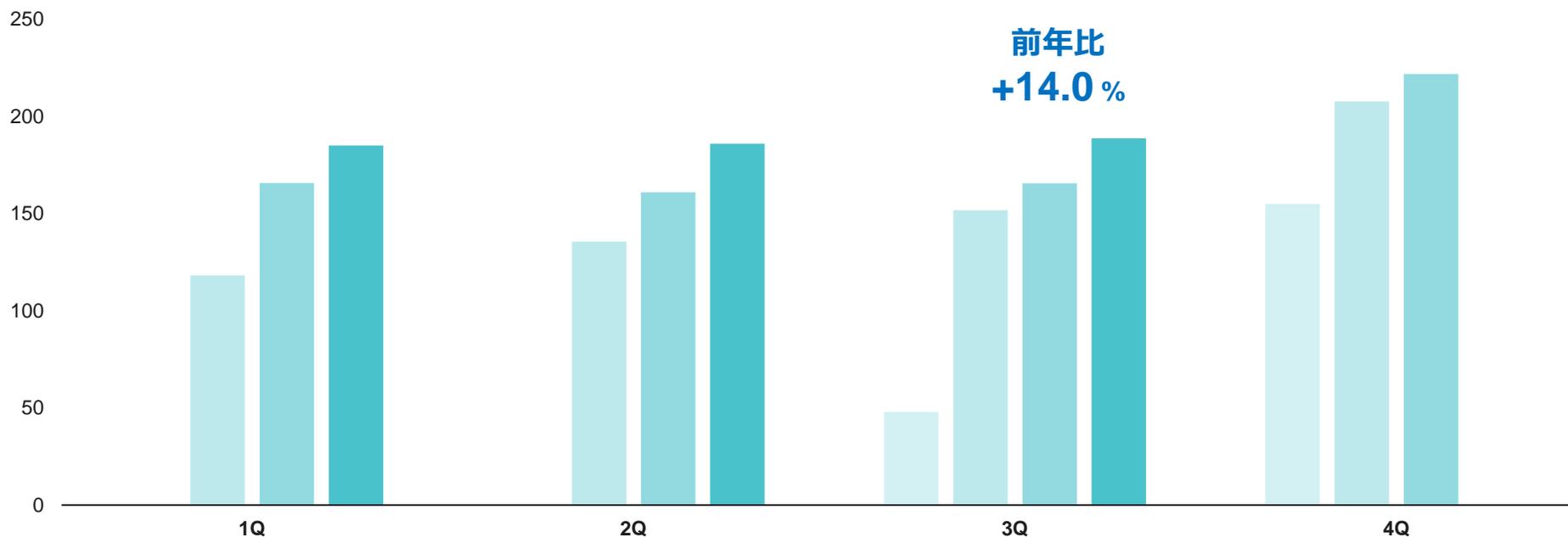
テストセンターでのCBT受験者数が増加

- テスト市場全体でCBT化が加速
- 医療系試験など、各種資格・検定試験でのテストセンター利用が増加
- 2023年9月期3Qの利用者数は約18.8万人。前年同期比で14.0%伸長

(単位：千人)

テストセンター利用者数 対前年比の伸び率

■ 20/9期 ■ 21/9期 ■ 22/9期 ■ 23/9期



※2020年6月より運営開始しており、20/9期3Qの数値は一ヶ月のみ ※4Qは季節要因により需要増の傾向

事業トピックス②

教育プラットフォーム事業

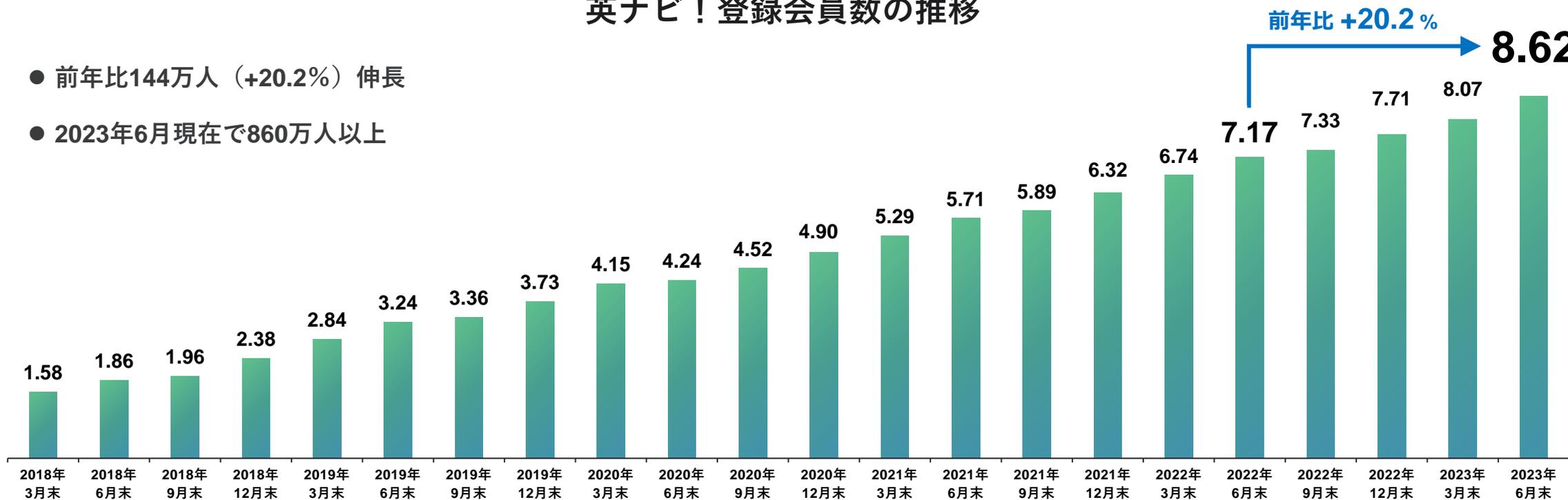
教育プラットフォームの基盤となる英ナビの会員数は中高生を中心に堅調に拡大

2023年6月末時点で約860万人となり、前年同期比で20.2%伸長

英ナビ！登録会員数の推移

(百万人)

- 前年比144万人 (+20.2%) 伸長
- 2023年6月現在で860万人以上



事業トピックス③

AI事業

教育業界のDXの一貫として、テストの採点業務の自動化を推進

「GPT-3.5」を活用した、高精度なAI自動採点ソリューションの提供を開始

2023年5月19日付けプレスリリースより抜粋

- ✓ 独自の自然言語処理技術にOpenAI社「GPT-3.5」を組み合わせた、汎用性の高いAI自動採点ソリューションの提供を開始
- ✓ 英文を、「内容」「構成」「文法」「語彙」の4つの観点に基づいて総合的に評価・添削
- ✓ 英語のライティング・スピーキングテストに対応し、今後は日本語の論述にも対応
- ✓ 教育事業者向けデモサイトを公開

英作文自動採点サービス（デモ版）

設問

以下の質問に対するあなたの意見を80語~100語の英文で書いてみましょう。文章にはリード文、あなたの意見を裏付ける理由を二つ、結論を含めてください。

質問

Should students have homework?

I think students should not have no homework. First, it is important for children to have free time and choose what they want after school. In addition, having no homework will save teachers' time. If there is homework, teachers spend many time on homework. Sometime it takes more than one or two hours to grade homework. In conclusion, no homework will make both students and teachers happy, so students should have no homework.

評価・解説：構成

構成：★★★★☆

I think students should not have ~~no~~ any homework. First, it is important for children to have free time and choose what they want to do after school. In addition, having no homework will save teachers' time. If there is homework, teachers will spend ~~many~~ a lot of time on ~~homework~~ it. ~~Sometime~~ Sometimes it takes more than one or two hours to grade homework. In conclusion, no homework will make both students and teachers happy, so students should not have ~~no~~ homework.

©リード文、理由、理由を裏付ける説明のいずれかが欠落しています。

あらゆる種類の書類から必要な情報をAIが自動抽出

GPT-4と独自の文字認識技術を組み合わせ、書類管理のDXを推進

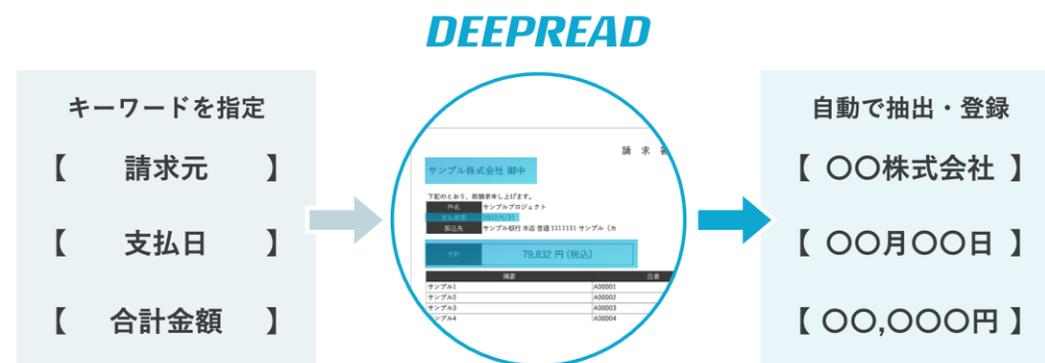
2023年6月6日付けプレスリリースより抜粋

✓ 高精度文字認識（OCR）サービス「DEEP READ」に「GPT-4」を組み合わせた新機能を追加

主な改善点は2点：

- ① AIが書類の意味を理解し、必要なデータを自動で抽出
- ② 従来のOCRでは読み取りが難しかった書類にも対応

✓ Azure OpenAI Serviceの活用で高度なセキュリティを確保



- 本資料は、株式会社EduLabの業績等について、株式会社EduLabによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社EduLabの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来展望に関する表明は、本資料開示時点（2023年8月14日現在）において利用可能な情報に基づいて株式会社EduLabによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。